

PALACOS®

The element of success
in joint replacement



Pt
Platinum
195.078

79
Au
Gold
196.966

47
Ag
Silver

46

QUALITY. EXPERTISE. INNOVATION.

MODERN CEMENTING TECHNIQUE FOR ARTHROPLASTY

パラコス はインプラントを半永久的に骨に固定する骨セメントとして、60年以上にわたりゴールドスタンダードであり続けています。

既存のノウハウと市場のニーズを結びつける、これがヘレウス社の成功法です。

数十年に及ぶ研究開発により、ヘレウス社は革新的な製品を発売し続けています。

人工関節形成術を成功に導くためには、適切な骨セメントを選択することはもちろんのこと、

モダン セメンティングテクニックの活用が極めて重要です。

ヘレウス社では、この目的に適した高品質のパラコス骨セメントからパラミックス バキュームミキシングシステムまで、

幅広い製品ラインアップを取り揃えています。

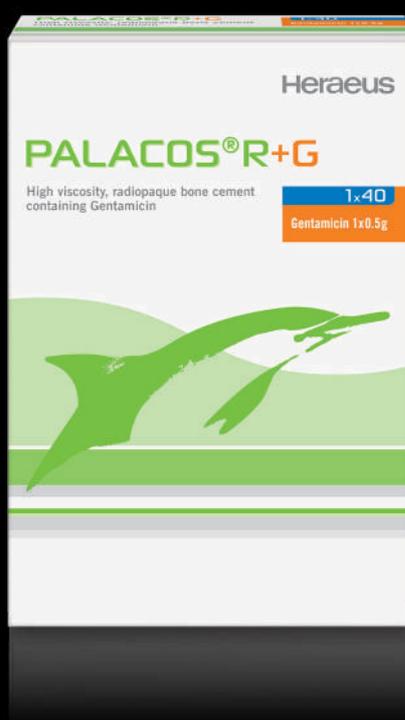


PALACOS® R+G

EFFECTIVE IN LOCAL ANTIBIOTIC PROPHYLAXIS

パラコス R+G は、高粘度のパラコス R 骨セメントにゲンタマイシンを追加したものです。抗菌剤の局所放出により全身負荷が軽減され、インプラントの感染リスクが抑えられます。(1)

感染のリスクが最も高い時期に、抗菌剤の初期溶出量は最大となり、細菌性病原体に対して効果を発揮します。また、手動で抗菌剤を添加した際のセメント機械特性への影響を抑えます。(2-4)



販売名・承認番号
パラコス R+G ボーンセメント・30100BZX00180000

ADVANTAGES AT A GLANCE

- 臨床実績に裏付けされた、インプラント固定のゴールドスタンダード
- 高い抗菌剤溶出率
- ワーキング特性：作業中の粘度が一定しており、スムーズに充填が可能
- 低いリビジョンリスク (1)

(1) Parvizi et al. Efficacy of antibiotic-impregnated cement in total hip replacement. Acta Orthop 2008; 79: 335-341.

(2) Kühn K.D.: PMMA Cements. Springer 2014; 147.

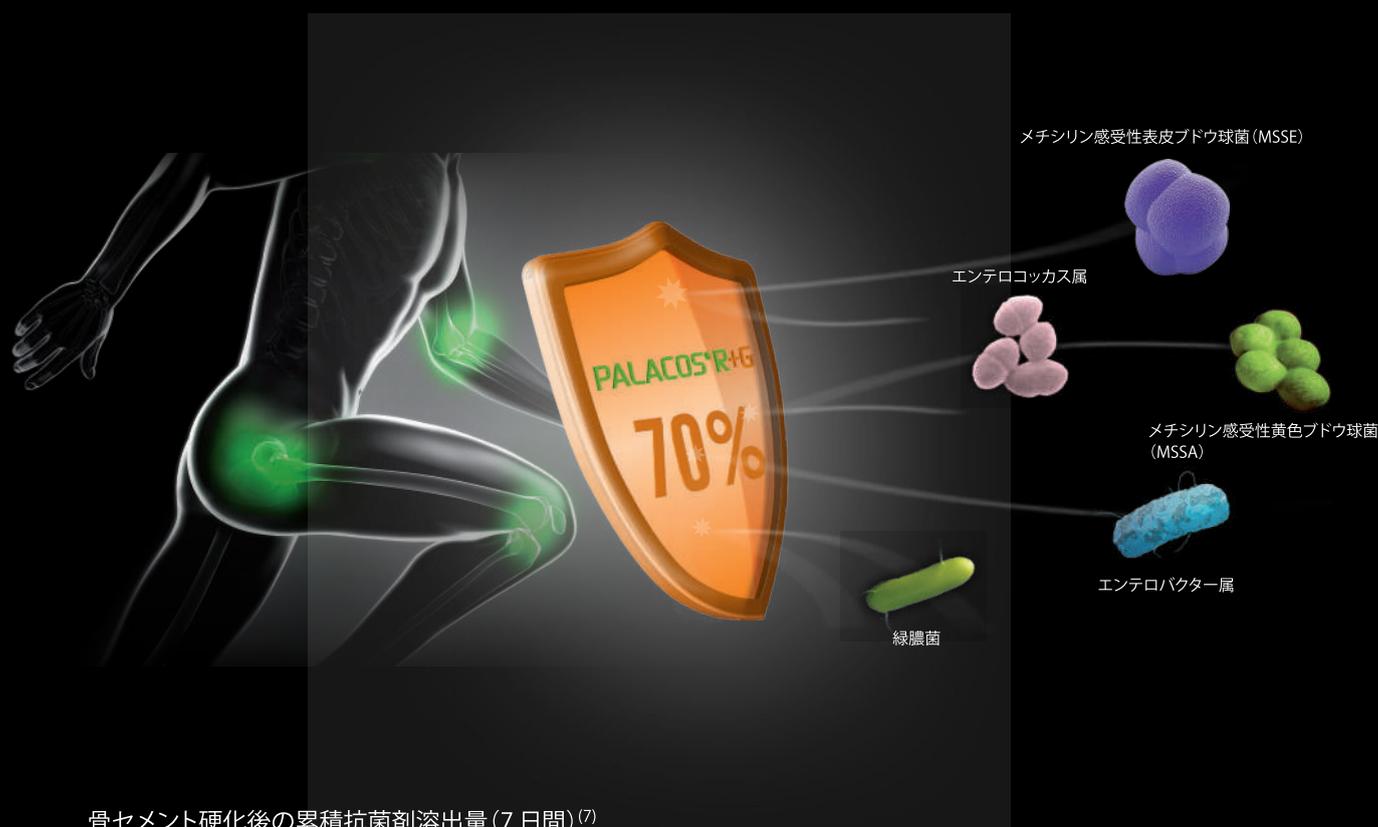
(3) Webb, J.C.J., Spencer, R.F. The role of polymethacrylate bone cement in modern orthopaedic surgery. The Journal of Bone and Joint Surgery, 2007, Vol 89-B, No.7: 855.

(4) Gristina A. et. al. Infections from biomaterials and implants: a race for the surface. Medical Progress through Technology 1988; 14:205-204: 218.

PALACOS® R+G

EFFECTIVE IN LOCAL ANTIBIOTIC PROPHYLAXIS

パラコス R+G と人工関節周囲感染症対策：ゲンタマイシンは抗菌スペクトルが広く、理想的な環境下においては人工関節周囲感染に関連する細菌の最大 70% に対して効果的です。⁽⁵⁾ さらにパラコス R+G は独自のポリマー構造により、高い抗菌剤溶出率を実現します。^(6,7) 特に、人工関節周囲感染のハイリスク期間中（インプラント挿入後 48 時間以内⁽⁸⁾）に高濃度で抗菌剤を溶出します。⁽⁷⁾



(5) Zimmerli W. Bone and Joint Infections. 2015; 132.

(6) Wahlig H, Dingeldein E. Antibiotics and Bone Cements: Experimental and Clinical Long-Term Observations, Acta Orthopaedica Scandinavica. 1980; 51: 1-6: 49-56.

(7) Kühn KD. PMMA Cements. Springer 2014; 147.

(8) Gristina AG, Naylor P, Myrvik Q. Infections from biomaterials and implants: a race for the surface. 1989; 205-224.